

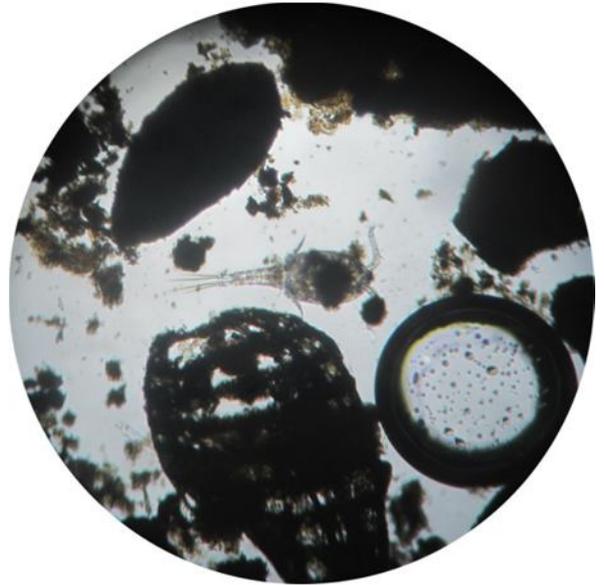
「ケンミジンコに学ぶ(2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

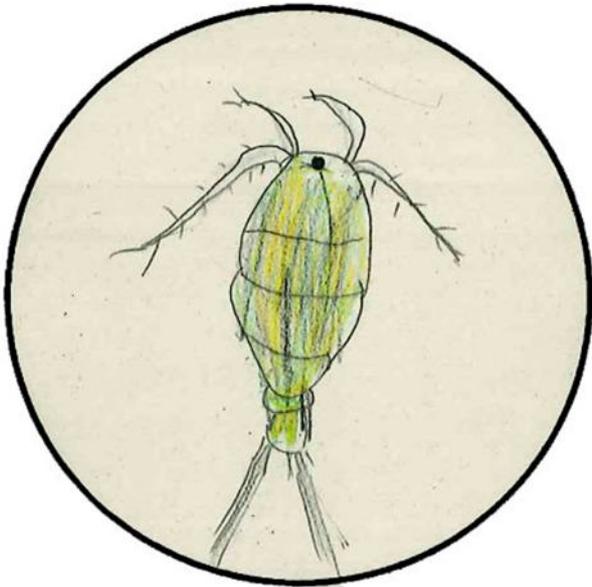
子どもが見つけた「謎のプランクトン」が、ケンミジンコ(甲殻類)の幼生(ノープリウス)と確かめるには、成体を探すしかない。私はケンミジンコの特徴を説明し、各研究所(班)に、その「搜索」を依頼した。ケンミジンコの写真は教科書にも載っているのです、特徴をしっかりと記憶してから、探すことにした。

しかし、今の時季、学校の池にはケンミジンコの個体数は少ない。これから産卵して増えるのだ。ミドリムシやゾウリムシは簡単に見つかるのだが、ケンミジンコはなかなか見つからない。子どもたちは、繰り返し池に出かけて、底の藻や、落葉についた泥を採取しつつ、あきらめずに何度も挑戦していた。

そしてついに、「あ、いた!ケンミジンコ!」一斉に歓声があがり、その顕微鏡の周囲はバーゲンセールになってしまった。



池の泥には、ゴミ、鉱物の結晶、微生物の死骸や脱皮後の抜け殻、泡などの「障害物」が多数ある。こういう場所ではケンミジンコも動きがとれず、かえって観察しやすい。その中にちょっと変わったケンミジンコもいた。ある子どもが、教卓までスライドグラスを持ってきた。「先生、このケンミジンコ、ちょっと変な形なんです。種類がちがうのかな・・・って。」



「ケンミジンコのスケッチ(5年生)」

一つだけの眼、触角の分岐、毛状の尾など、ケンミジンコの特徴をよくとらえている。

子どもたちのつぶやきから、ケンミジンコは、カバーガラスの端、泥やゴミのすき間によく潜んでいることがわかってきた。こうした情報は、光子なみのスピードで学級全体に伝わる。子どもたちはすぐにコツをつかみ、次々とケンミジンコが見つかった。



おっと!これはひょっとして「コペポデイド幼生」!ノープリウス幼生に続いてコペポデイド幼生とは!これは、ますます面白くなってきた。(つづく)